

読書への誘い

編集・発行 海南高校図書館
2017年12月18日

高校生の皆さんは本を読みますか、スマートフォンで読んでいるのでしょうか。私の学生時代はもちろん携帯電話がありませんでした、だから本屋によく行きました。今でも暇があれば行きます。学生時代最も熱中し読んだのが五木寛之の「青春の門」でした。第1部筑豊篇からではなく第3部放浪篇あたりから読み始めたと思います。主人公の伊吹信介と幼なじみの織江との関係がどのようになっていくのか気になり読み終わるとすぐに本屋に買いに行ったのを思い出します。

卒業後高校の非常勤講師になり保健の授業を持つようになると勉強の意味から作家が医者である本を読むようになりまし。渡辺淳一の「花埋み」(はなうずみ)日本初の女医、「遠き落日」野口英世の伝記、「阿寒に果つ」天才少女の画家が阿寒湖で自ら命を絶つストーリーなどです。この「阿寒に果つ」は今年8月に北海道で中国人女性が亡くなったことと関連があるのではと推測する人もいます。その他「無影燈」「流水への旅」等初期の作品をたくさん読みました。そんな中「白い宴」を読み渡辺淳一が医者をやめ作家に専念するきっかけとなったのが和田心臓移植事件だと知りました。1968年(昭和43年)8月8日札幌医科大学胸部外科チームが日本初の心臓移植を実施し、この移植に関する内容を批判的ではないが小説として発表したことにより同大学に居づらくなり翌年大学を退職し作家専業となったようです。

1980年代医療現場を描いた「孤高のメス」シリーズ現役医師である大鐘稔彦の医療小説に感動しました。内容は、この頃札幌医科大学での事件があり臓器移植には踏み込めない時代だったにも関わらず生体肝移植や脳死肝移植を実行しようとする医師当麻鉄彦が主人公で、大学病院の古いしきたりに縛られるのではなく目の前の患者の命を最優先に手術に望む外科医師の姿を描いています。1997年脳死移植を認める「臓器移植法」が施行されましたが、ドナーの条件が厳しすぎるため年間数人程度の手術にとどまっています。その後1999年2月、33年ぶりに大阪大学チームが心臓移植を実施しています。2010年に現在の改正臓器移植法が施行され15歳以下の子供にも条件付きで臓器提供が認められるようになりましたが、海外に渡るケースでは費用が莫大な金額になっています。

ここからは、高校生でも読んだ人が多い海堂尊の作品を紹介します。「ジェネラル・ルージュの凱旋」「アリアドネの弾丸」「螺旋迷宮」など色々あります。なんとっても代表作は「チーム・バチスタの栄光」です。これは拡張型心筋症の患者に対する大変難度が高い手術の様子が描かれています。人工心肺装置を使い、臨床検査技師や多くのスタッフがチームになって取り組むのです。いったん止めた心臓が手術後に再度、拍動するかどうか緊張する場面が印象的です。欧米では心臓移植が主流ですが日本ではまだまだ心臓移植が少ないためにこの方法が行われているのです。移植医療の分野では欧米にかなり遅れをとっていますが京都大学山中伸弥教授が開発したiPS細胞により今後素晴らしい発展を遂げることでしょう。すでに目の分野では人間に角膜を移植する段階まで来ています。また昨日の新聞には人間の細胞から作った腎臓がマウスに移植し機能したことが報道されていました。



さて、ここからは、やはり自分の専門分野である野球に関する本を紹介したいと思います。野球には大変多くの難しいルー

好きな人物・作家の本を読んでみよう！

興味を持った医療現場シリーズから専門分野の作品まで紹介します！

ルがあります、それが1冊の本になっています。ほとんどの人は読んだことがないと思いますが、公認野球規則というルールブックです。日本では1904年(明治34年)に野球規則が制定され、その後、大きな改革が何度も行われ、1956年(昭和31年)にプロアマ合同の公認野球規則書が誕生しました。それ以来毎年懸案事項が話し合われ改正されています。かなり難解な本です。その内容を少し紹介します。1. 00 試合の目的 1. 01 野球は囲いのある競技場で、監督が指揮をする9人のプレーヤーから成る二つのチームの間で、1人ないし数人の審判員の権限のもとに、本規則に従って行われる競技である。時々少年野球の試合で熱心な保護者がネット越し自分の子供にアドバイスを送っているのを見かけるが明らかにルール違反です。熱心に応援するあまりにアドバイスすることのないにしましょう。また5. 08 得点の記録 (a) 3人アウトになってそのインニングが終了する前に、走者が正規に一塁、二塁、三塁、本塁に進み、かつこれに触れた場合には、その都度、1点が記録される。〔例外〕第3アウトが次のような場合には、そのアウトにいたるプレイ中に、走者(1. 2にあたる場合は全走者、3にあたる場合は後位の走者)が本塁に進んでも、得点は記録されない。(1) 打者走者が一塁に触れる前にアウトにされたとき。(2) 走者がフォースアウトされたとき。(3) 前位の走者が塁に触れ損ねてアウトにされたとき。〔注1〕第3アウトがフォースアウト以外のアウトで、そのプレイ中に他の走者が本塁に達した場合、審判員は、その走者にアピールプレイが残っているか否かに関係なく、本塁到達の方が第3アウトより早かったか否かを明示しなければならない。このように書かれています。この内容を理解できた方はかなり野球通だと思います。これを解説するとかなり時間がかかりますから気になる方は聞きに来てください。

次はプロ野球界ナンバーワンの打者イチローについてです。イチロー本人は本を出していませんがいろいろな人がゲームのあとのコメントやインタビューから内容を解説している本を出しています。その中で最も新しい「イチロー流準備の極意」青春出版・児玉光雄著を紹介しします。野球選手だけでなく受験を控えた3年生にも役立つと思います。最後の追い込みで大変だと思いますが受験勉強の間でも読める短い文章です。『ハイレベルのスピードでプレイするために、僕は絶えず体と心の準備はしています。自分にとって一番大切なことは、試合前に完璧な準備をすることです。』このように書いてあります。これだけ完璧な準備をしたから、どんな結果でも後悔しないという覚悟があるのです。結果は本番前に決まっているのです。また『ようするに、準備というのは、言い訳の材料となり得るものを排除していく、そのために考え得るすべてのことをこなしていく、ということですね。』試合が終わると彼は1時間ぐらいかけてクラブとスパイクを丁寧に磨きます、メジャーでは道具係の仕事ですが、この時間に今日の試合を振り返り明日の準備を考えていると思われ。自宅に帰り食事前に練習、食後に練習、マッサーシ次の日グラウンドに出て試合前の準備、ストレッチをこなす。毎日同じことを繰り返します。つまりイチローにとって準備が本番のゲームより大切なことかもしれないのです。自分が決めたことを淡々で行う準備の時間を持つこと。それが習慣化されれば、結果に左右されない強い精神力を養うことができるのです。イチローに続き大谷翔平(エンゼルス)が二刀流に挑戦します。ペーブルースが成し遂げられなかった二刀流が成功すればイチローを超えるかもしれません。

読書への誘いというテーマから少し外れたような気がしますが皆さんの本に関する興味に繋がればと思います。